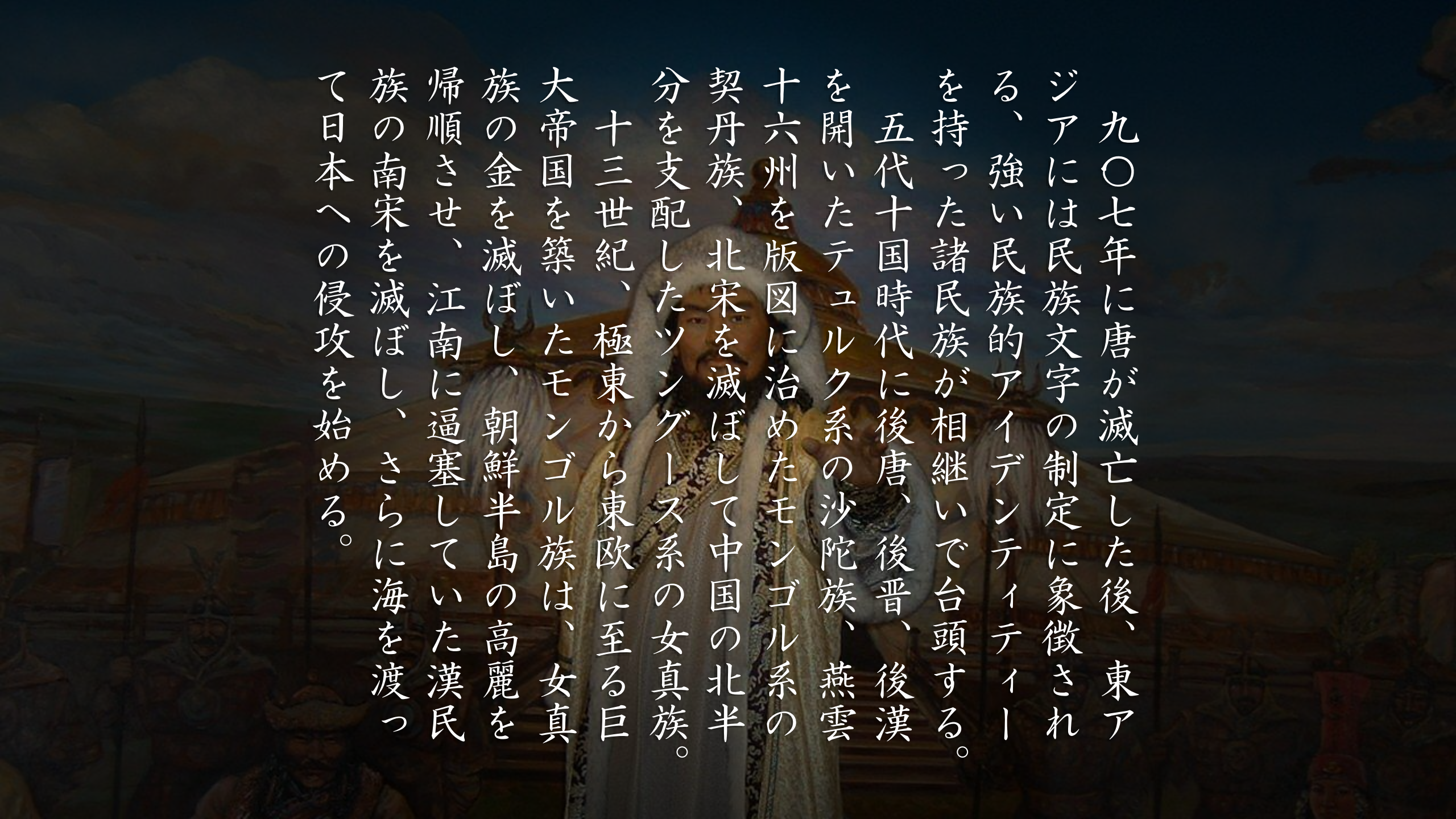


中国の文化Ⅲ

日中文化交流史

第六回 元寇



九〇七年に唐が滅亡した後、東アジアには民族文字の制定に象徴される、強い民族的アイデンティティを持った諸民族が相継いで台頭する。

五代十国時代に後唐、後晋、後漢を開いたテュルク系の沙陀族、燕雲十六州を版図に治めたモンゴル系の契丹族、北宋を滅ぼして中国の北半分を支配したツングース系の女真族。

十三世紀、極東から東欧に至る巨大帝国を築いたモンゴル族は、女真族の金を滅ぼし、朝鮮半島の高麗を帰順させ、江南に逼塞していた漢民族の南宋を滅ぼし、さらに海を渡って日本への侵攻を始める。

0	後漢 25-220		
100			
200	魏 220-265	蜀 221-263	吳 222-280
300	晋 265-316		
400	五胡十六国時代	東晋 317-420	
500	北朝 439-589	南朝 420-589	
600	隋 581-619		
700	唐 618-907		
800	五代十国 907-960		
1000	遼	北宋 960-1127	
1100			
1200	金 1115-1234	南宋 1127-1279	
1300	元 1271-1368		
1400			
1500	明 1368-1644		
1600			
1700			
1800	清 1616-1912		
1900	中華民國 1912-1949		
2000	中華人民共和國 1949-		



9世紀 万葉仮名から
ひらがなが誕生する



0			
100	後漢 25-220		
200	魏 220-265	蜀 221-263	吳 222-280
300	晉 265-316		
400	五胡十六国時代	東晉 317-420	
500	北朝 439-589	南朝 420-589	
600	隋 581-619		
700	唐 618-907		
900	五代十国 907-960		
1000	遼	北宋 960-1127	
1200	金 1115-1234	南宋 1127-1279	
1300	元 1271-1368		
1500	明 1368-1644		
1800	清 1616-1912		
1900	中華民國 1912-1949		
2000	中華人民共和國 1949-		



0	後漢 25-220		
100			
200	魏 220-265	蜀 221-263	吳 222-280
300	晋 265-316		
400	五胡十六国時代	東晋 317-420	
500	北朝 439-589	南朝 420-589	
600	隋 581-619		
700	唐 618-907		
800			
900	五代十国 907-960		
1000	遼	北宋 960-1127	
1100			
1200	金 1115-1234	南宋 1127-1279	
1300	元 1271-1368		
1400			
1500	明 1368-1644		
1600			
1700			
1800	清 1616-1912		
1900			
2000	中華民國 1912-1949 中華人民共和國 1949-		



0	後漢 25-220	
100		
200	魏 220-265	蜀 221-263
300	晋 265-316	
400	五胡十六国時代	東晋 317-420
500	北朝 439-589	南朝 420-589
600	隋 581-619	
700	唐 618-907	
800		
900	五代十国 907-960	
1000	遼	北宋 960-1127
1100		
1200	金 1115-1234	南宋 1127-1279
1300	元 1271-1368	
1400		
1500	明 1368-1644	
1600		
1700		
1800	清 1616-1912	
1900		
2000	中華民国 1912-1949	中華人民共和国 1949-

12世紀 金の太祖阿骨打が女真大字を
 第三代皇帝熙宗が女真小字を制定



鎌倉時代の謎の文字

〔解説〕

鎌倉時代の歴史書『吾妻鏡』には、一二二四年、越後国(新潟県)に漂着した一行が謎の四文字を記した銀牌を所持してことが記録されている。

一九七六年、旧ソ連領沿海州の遺跡から同様の銀牌が発見され、これが女真文字で「国の誠」と記した通行証であることが明らかになった。

十一日 於御嶽有大追物前奥州相公羽林等被
襲犬十二疋射手六騎也
 北二日 自駿河國進使者申云一昨日 北日 丑刻
 當國惣社并富士新宮等燒失神火云云
 北九日 去年冬比高麗人垂船流寄于越後國寺
 泊浦仍今日式部大夫 雜辨 執進其弓箭以下具足

於若君御方則覽之奥州以下群衆弓二張
常服但
似連弓羽壺一太刀一常刀那劍刀一常刀同帶
以皮爲囊 彼帶中央付銀簡三寸方也其中注銘四
 一筋紐之 字也又銀題一銘一箸一雙動物也櫛以皮造之具足
 等者似吾國之類皆見形知名於四字銘者文士數
 輩雖令衆候無讀之人云 簡銘書畫

亡駐糸族

亡駐糸族

『吾妻鏡』卷二六

貞応三年(一二二四)二月

二九日 去年の冬頃、高麗人の乗る船が越後国寺泊*に漂着した。...

帯の中央に銀簡(長さ七寸、幅三寸

の方形)をつけ、その中に四文字の

銘が刻まれていた。...

この四文字の銘を学者数人に調べさせたが、誰も読めなかった。

*越後国寺泊 現新潟県長岡市寺泊

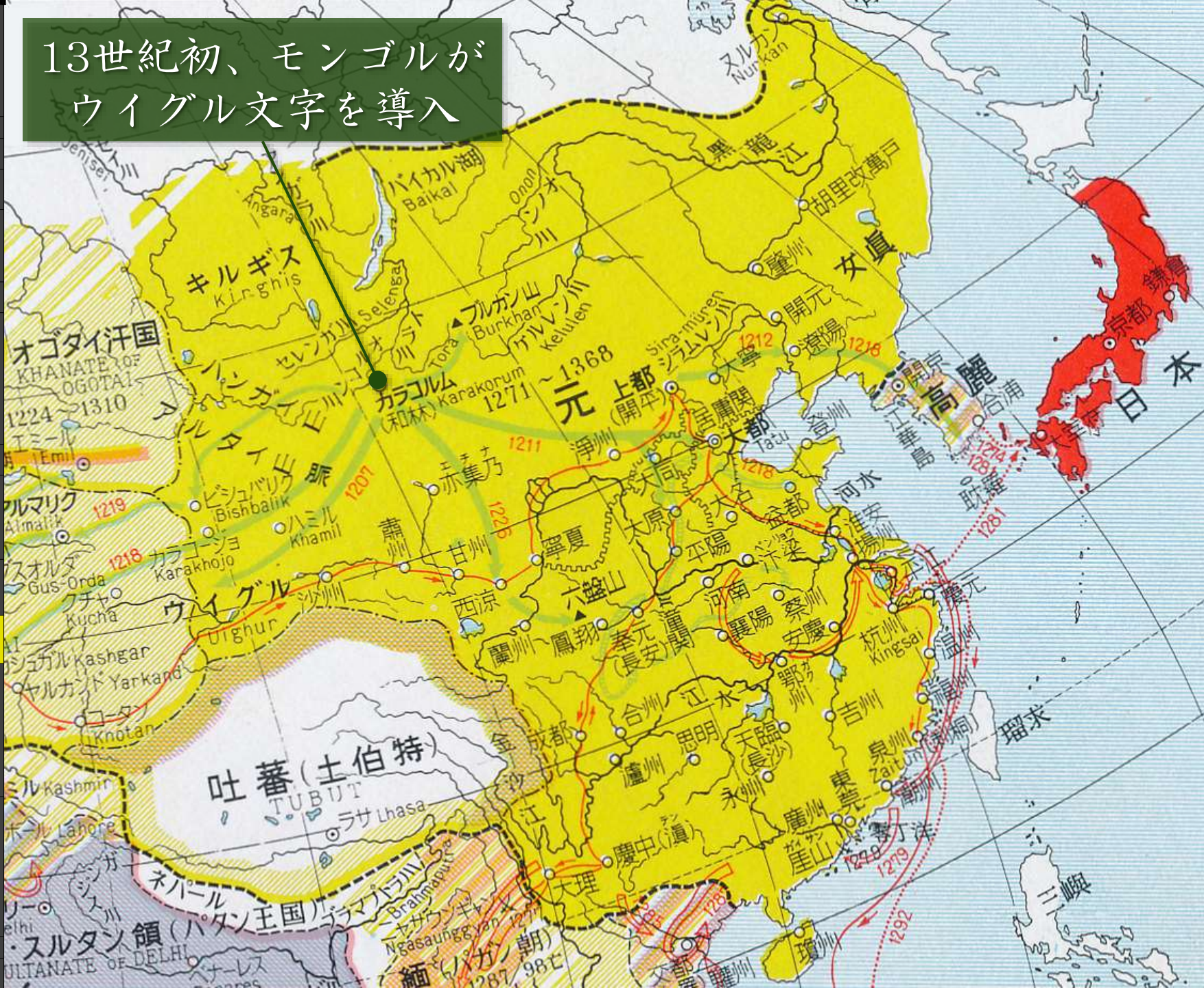
北二日 自駿河國進使者申云。一昨日 北日 丑刻 當國惣社并富士新宮等焼失神火云云。 北九日 去年冬比高麗人垂船流寄于越後國寺泊浦仍今日式部大夫 執進其弓箭以下具足

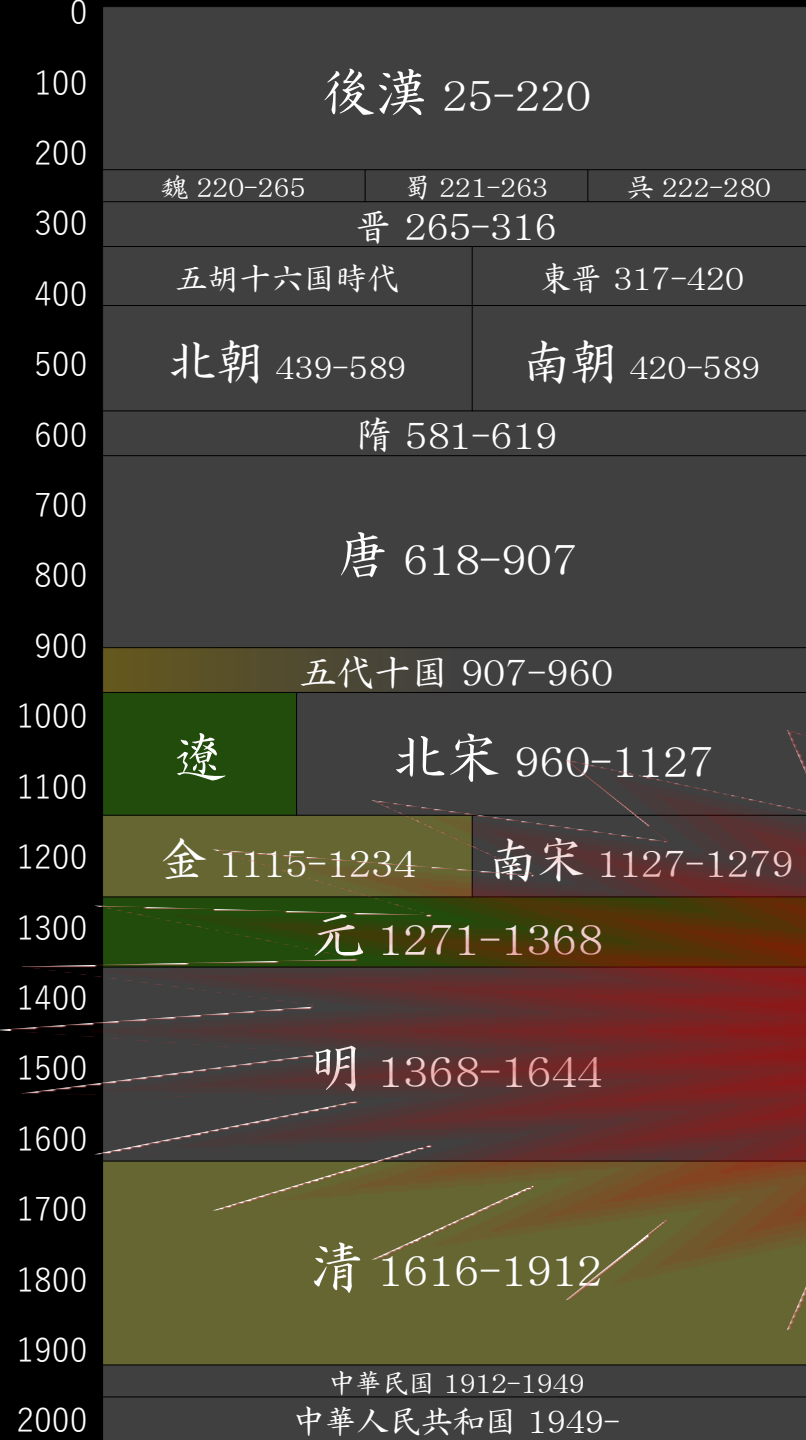
於若君御方則覽之奥州以下群衆弓二張 常服 一筋之彼帶中央付銀簡三寸方也 其中注銘四字也又銀題一銘一箸一雙動物也 櫛以皮造之具足等者似吾國之類皆見形知名於四字銘者文士數輩雖令衆候無讀之人云云 簡銘書 亡駐糸族

亡駐糸族

0	後漢 25-220		
100			
200	魏 220-265	蜀 221-263	呉 222-280
300	晋 265-316		
400	五胡十六国時代	東晋 317-420	
500	北朝 439-589	南朝 420-589	
600	隋 581-619		
700	唐 618-907		
800	五代十国 907-960		
900			
1000	遼	北宋 960-1127	
1100			
1200	金 1115-1234	南宋 1127-1279	
1300	元 1271-1368		
1400			
1500	明 1368-1644		
1600			
1700			
1800	清 1616-1912		
1900	中華民國 1912-1949		
2000	中華人民共和國 1949-		

13世紀初、モンゴルが
ウイグル文字を導入

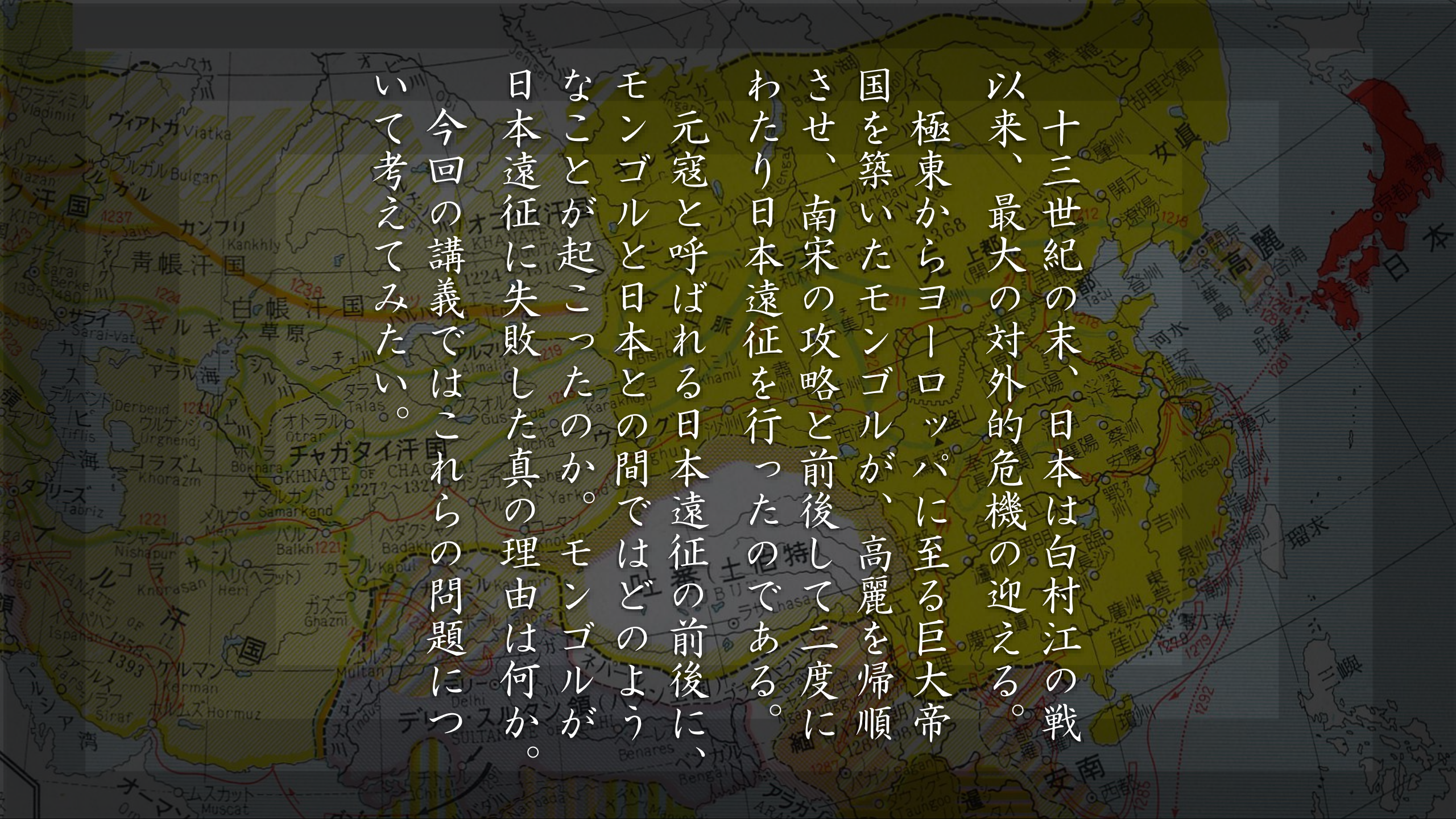




征服王朝

Conquest Dynasties

Karl August Wittfogel (1896~1988)



十三世紀の末、日本は白村江の戦
以来、最大の対外的危機の迎える。
極東からヨーロッパに至る巨大帝
国を築いたモンゴルが、高麗を帰順
させ、南宋の攻略と前後して二度に
わたり日本遠征を行ったのである。

元寇と呼ばれる日本遠征の前後に、
モンゴルと日本との間ではどのよう
なことが起こったのか。モンゴルが
日本遠征に失敗した真の理由は何か。
今回の講義ではこれらの問題につ
いて考えてみたい。



目次

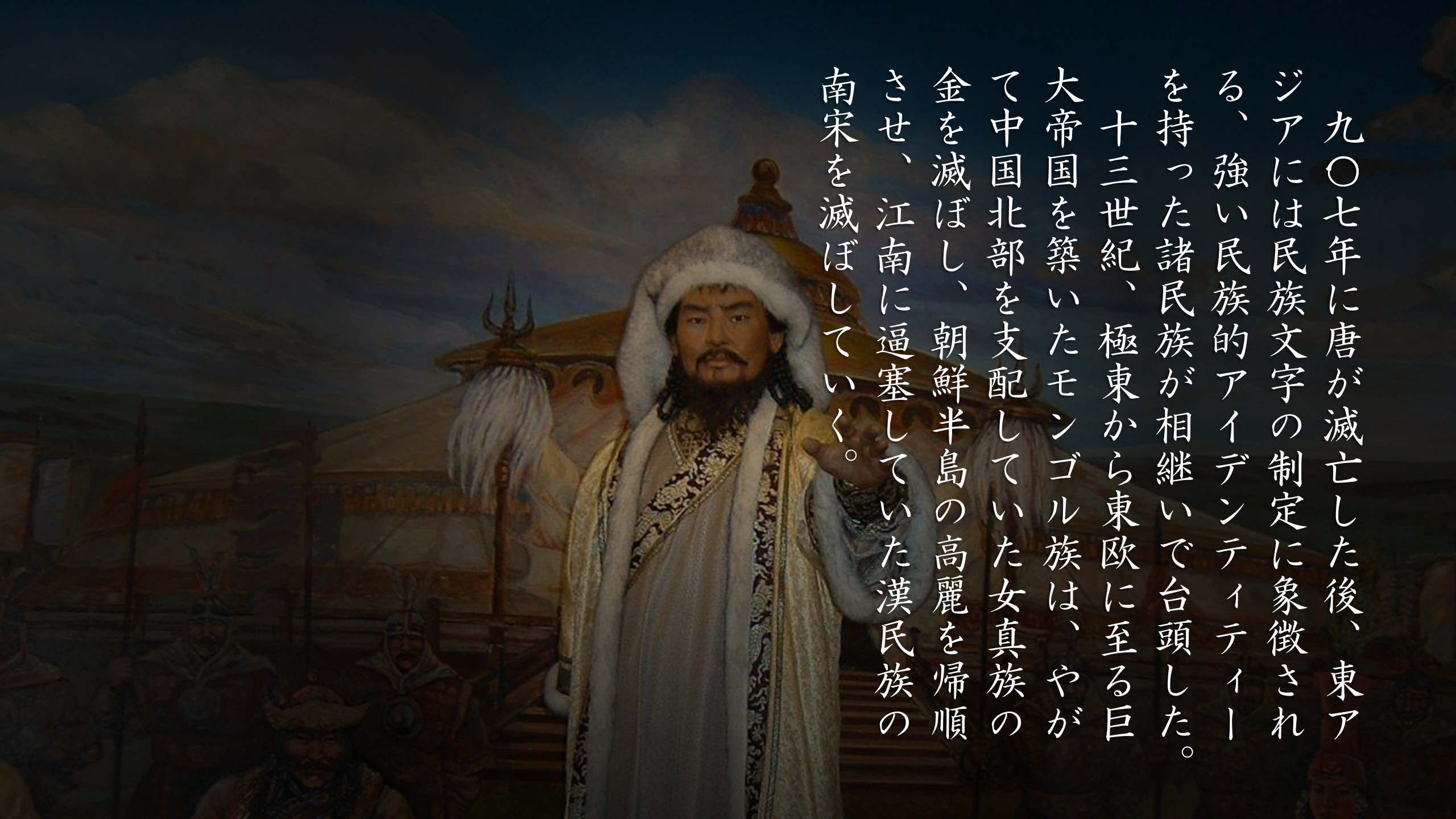
第一節 元の第一回日本遠征と三別抄

第二節 南宋の滅亡

第三節 元の第二回日本遠征と幻の第三回遠征計画



第一節 元の第一回日本遠征と三別抄



九〇七年に唐が滅亡した後、東アジアには民族文字の制定に象徴される、強い民族的アイデンティティを持った諸民族が相継いで台頭した。十三世紀、極東から東欧に至る巨大帝国を築いたモンゴル族は、やがて中国北部を支配していた女真族の金を滅ぼし、朝鮮半島の高麗を帰順させ、江南に逼塞していた漢民族の南宋を滅ぼしていく。



モンゴルの第五代皇帝クビライ

モンゴルは南宋の攻略と前後して
二回にわたり日本遠征を行う。
南宋から亡命した渡来僧を通じて
モンゴルへの警戒心を強めていた日
本は、白村江の戦い以来六百年ぶり
に大規模な国際戦争に突入する。

〔解説〕

元寇Ⅱ六百年ぶりの国際戦争



鎌倉幕府第八代執権・北条時宗

モンゴルの皇帝クビライは、日本への遠征を決行する前に行った。それは何か？

①日本に先遣隊を派遣して、防衛設備の破壊を行った

②日本に親書を送り、外交による関係構築を求めた



クビライからの親書

〔解説〕

モンゴルの第五代皇帝クビライは、当初から日本遠征を計画していたわけではなかった。

第一回日本遠征の六年前（一二六八年）には日本に親書を送り、外交による関係構築を試みている。

その親書の写しが奈良東大寺に保存されている。『蒙古国牒状（調伏異朝怨敵抄）』である。

蒙古国牒状

上天眷命

大蒙古国皇帝奉書

日本國王朕惟自古小國之君
境土相接尚勢講信修睦况我
祖宗受天明命奄有區夏遐方異
域畏威懷德者不可悉數朕即
位之初以高麗无辜之氏久瘁
鋒鏑即令罷兵還其疆域及其

蒙古國牒狀(クビライからの親書)

天命を受けた大蒙古国の皇帝が、書を日本国王に奉る。

朕が思うに、昔から国境を接するものは、小国の君主であつても音信を通じあい、和睦に努めてきた。まして我が祖宗は天命を受け、中国を領有した。周辺の国々もわが威を恐れ、徳を慕うものは数知れない。

蒙古國牒狀(奈良東大寺尊勝院藏)

蒙古國牒狀

上天眷命

大蒙古國皇帝奉書

日本國王朕惟自古小國之君
境土相接尚勢講信修睦况我
祖宗受天明命奄有區夏遐方異
域畏威懷德者不可悉數朕即
位之初以高麗无辜之民久瘁
鋒鏑即令罷兵還其疆域及其

蒙古國牒狀(クビライからの親書)

朕が即位した初め、高麗の無辜の民が長く戦争に苦しんでいたため、兵を引き揚げ、国土を還し、老人子供を帰国させた。高麗の君臣は感激して来朝し、君臣の関係ではあるが、父子のように仲睦まじくしている。

蒙古國牒狀(奈良東大寺尊勝院藏)

境土相接尚勢講信修睦况我祖宗受天明命奄有區夏遐方異域畏威懷德者不可悉數朕即位之初以高麗无辜之民久瘁鋒鏑即令罷兵還其疆域及其

旄倪高麗君臣感戴來朝義雖君臣而歡若父子計

王之君臣亦已知之高麗朕之東藩也日本密通高麗開國以來亦時通中國至於朕躬而無一無之使以通和好尚恐

王國知之未審故特遣使持書布告朕志真自今以往通問結

蒙古國牒狀(クビライからの親書)

思うにこのことは王の君臣もすで
にご存じであるろう。高麗は朕の東の
藩属国であり、日本は高麗と密接な
関係にあり、開国以来しばしば中国
とも通交している。

蒙古國牒狀(奈良東大寺尊勝院藏)

旄倪高麗君臣感戴來朝義雖
君臣の歡若父子計

王之君臣亦已知之高麗朕之

東藩也日本密通高麗開國以

來亦時通中國至於朕躬而無

一乘之使以通和好尚恐

王國知之未審故特遣使持書

布告朕志真自今以往通問結

好以相親睦且聖人以四海為

家不相通好豈一家之理哉至

用兵夫孰所好

王具圖之不宣

至元三年八月日

蒙古國牒狀(クビライからの親書)

ところが朕が即位して以来、一度も平和友好の使節が送られていない。これは王の国がよく事情をご存じないからである。そこでいま使節を派遣し、親書を持参させて朕の意を伝えることにした。願わくは、今後は交流を深めて友好関係を結び、和睦をはかりたい。

蒙古國牒狀(奈良東大寺尊勝院藏)

東藩也日本密通高麗開國以來亦時通中國至於朕躬而無一棄之使以通和好尚恐王國知之未審故特遣使持書布告朕志真自今以往通問結好以相親睦且聖人以四海為家不相通好豈一家之理哉至用兵夫孰所好王具圖之不宣

至元三年八月日

蒙古國牒狀(クビライからの親書)

聖人は四海を以つて家とするとい
うが、互いに交流を深めずにどうし
て一家といふことができようか。ま
して刃を交えるなど、誰がそれを望
もうか。王よ、どうか熟慮されよ。

至元三年八月 日

蒙古國牒狀(奈良東大寺尊勝院藏)

王之君臣亦已知之高麗朕之
東藩也日本密通高麗開國以
來亦時通中國至於朕躬而無
一乘之使以通和好尚恐
王國知之未審故特遣使持書
布告朕志真自今以往通問結
好以相親睦且聖人以四海為
家不相通好豈一家之理哉至
用兵夫孰所好
王具圖之不宣

至元三年八月 日

モンゴルの使節派遣

〔解説〕

当初、外交交渉による関係構築を模索していたモンゴルは、一二六八年以来、再三にわたり日本に使節を派遣していた。

この外交交渉による戦争回避の試みは、開戦の直前まで続けられた。

日本遠征に反対した元朝の政治家

〔解説〕

女真人の趙良弼（一一二一―七一八六）は、金朝の時代、モンゴルとの戦いで父や兄を失い、母とともに戦火の中をさまよったことがあった。

クビライが日本遠征を計画していた時、彼は自ら願い出て二度にわたり日本との交渉に当たった。さらに交渉が決裂すると、日本側に東アジアの実状を伝えるため、十二人の日本人を元の都大都に送っている。

日本遠征に反対した元朝の政治家

〔解説〕

日本からの帰国後、クビライから日本遠征について意見を求められた時、趙良弼はこう述べて遠征に反対したという。

「かの地の人々は勇猛で人殺しを好み、また土地も山川が多く、農耕の利はありません。人を得ても使役できず、地を得ても富むことはできない。：：これでは有用の民の力を、ただ無駄に費やすだけのこと。遠征は止めるべきと考えます。」

（『元史』巻一五九趙良弼伝）



モンゴルの第五代皇帝クビライ

- | | |
|-------|--|
| 1268年 | 1月、モンゴルの命を受けた高麗の使節団が大宰府に来訪し親書(蒙古国牒状)を渡す(第一回) |
| 69年 | 2月、モンゴルの使節団が対馬に来訪(第二回) 9月、再び対馬に来訪し国書を渡す(第三回) |
| 70年 | 1月、朝廷がモンゴルへの返書を作るが、幕府の反対で送付せず |
| 71年 | 9月、趙良弼らモンゴルの使節団が筑前に来訪(第四回) 11月、国号を大元と定める |
| 72年 | 2月、日本の使節が高麗を經由して元の都・大都を視察 |
| 73年 | 3月、趙良弼ら元の使節団が再び大宰府に来訪 (~9月 第五回) |
| 74年 | 10月、元の軍隊が対馬、筑前に来襲 (文永の役) |
| 75年 | 4月、杜世忠ら元の使節団が長門室津に来訪 9月、鎌倉で斬首される(第六回) |
| 76年 | 1月、元が南宋の都・臨安に入城、宋帝を大都へ 10月、幕府が筑前の海岸に石塁を築造 |
| 77年 | 6月、南宋に渡った日本商船が交易を止めて帰国 |
| 78年 | 11月、元が日本商船の交易を許す |
| 79年 | 2月、元が南宋を滅ぼす 7月、周福ら元の使節団が筑紫に来訪 博多で斬首される(第七回) |
| 80年 | 2月、朝廷が諸寺に異国降伏の祈禱を命じる |
| 81年 | 5月、高麗軍が対馬に来襲 6月、元軍が高麗軍と合流し、志賀島、長門に来襲 (弘安の役) |

(中略)

88年 ベトナムがバクダン(白藤)河の戦いで元軍を破る

一方、クビライが日本との外交交渉を試みていた当時、朝鮮半島の高麗はどのような状況にあったのだろうか。





NHK ETV特集「日本と朝鮮の2000年第6集」より

外交交渉を拒否した日本に対し、クビライは第一回遠征を計画する。しかし、それが実行されたのは六年も後のことだった。それはなぜか？

① 朝鮮半島でモンゴルに対する激しい抵抗運動が起ったため

② クビライが亡くなり、モンゴル内部で後継者争いが起ったため





NHK ETV特集「日本と朝鮮の2000年第6集」より

- | | |
|-------|---|
| 1231年 | モンゴルが高麗に派遣した使節殺害を理由に高麗への侵攻開始 |
| 32年 | 高麗王高宗が開城から江華島へ朝廷を移す |
| 36年 | 高麗王高宗が符仁寺大藏経の版木の復元を指示 |
| 60年 | 4月、クビライがモンゴル皇帝に即位。高麗王高宗が没し、世子の王僖が即位（元宗） |
| 68年 | 1月、モンゴルの命を受けた高麗の使節団が大宰府に来訪し親書(蒙古国牒状)を渡す(第一回)
高麗王元宗がモンゴルの支援を受け武臣のクーデターを鎮圧（武臣政権の終焉＝王政復古） |
| 69年 | 2月、モンゴルの使節団が対馬に来訪(第二回) 9月、再び対馬に来訪し国書を渡す(第三回) |
| 70年 | 1月、朝廷がモンゴルへの返書を作るが、幕府の反対で送付せず
高麗王元宗が江華島から開城に朝廷を戻し、三別抄に解散を命じる
三別抄が珍島に移り、モンゴルへの抵抗運動を始める |
| 71年 | 9月、趙良弼らモンゴルの使節団が筑前に来訪(第四回) 11月、国号を大元と定める
三別抄が鎌倉幕府に救援を求める
モンゴル・高麗連合軍が珍島の三別抄を攻撃、三別抄の残党が濟州島に逃亡 |
| 72年 | 2月、趙良弼ら使節団とともに日本の使節が高麗を經由して元の都・大都を視察 |
| 73年 | 3月、趙良弼ら元の使節団が再び大宰府に来訪（～9月 第五回）
モンゴル・高麗連合軍が濟州島の三別抄の残党を鎮圧 |
| 74年 | 10月、元の軍隊が対馬、筑前に来襲（文永の役） |

蒙古襲来絵詞

〔解説〕

朝鮮半島の抵抗を鎮圧したモンゴルは、一二七四年、日本への第一回遠征（文永の役）を行う。

そのようすを描いたのが、『蒙古襲来絵詞』である。

この絵巻物は、肥後国（熊本県）の御家人竹崎季長（すえなが）が、文永・弘安の役での活躍と、恩賞を得るため鎌倉へ行って幕府に直訴し、所領を得るまでの経緯を描いたもの。

季長が阿蘇の神・甲佐明神の加護に感謝するため制作させ、甲佐神社に奉納したものとされる。

一八九〇年、明治天皇に献上され、現在は宮内庁三の丸尚蔵館に所蔵されている。



蒙古襲来絵詞 (宮内庁三の丸尚蔵館蔵)



てつぱう

て
天
つ
川
は
者
う
宇

て
つ
は
う

鉄
砲

蒙古襲来絵詞 (宮内庁三の丸尚蔵館蔵)

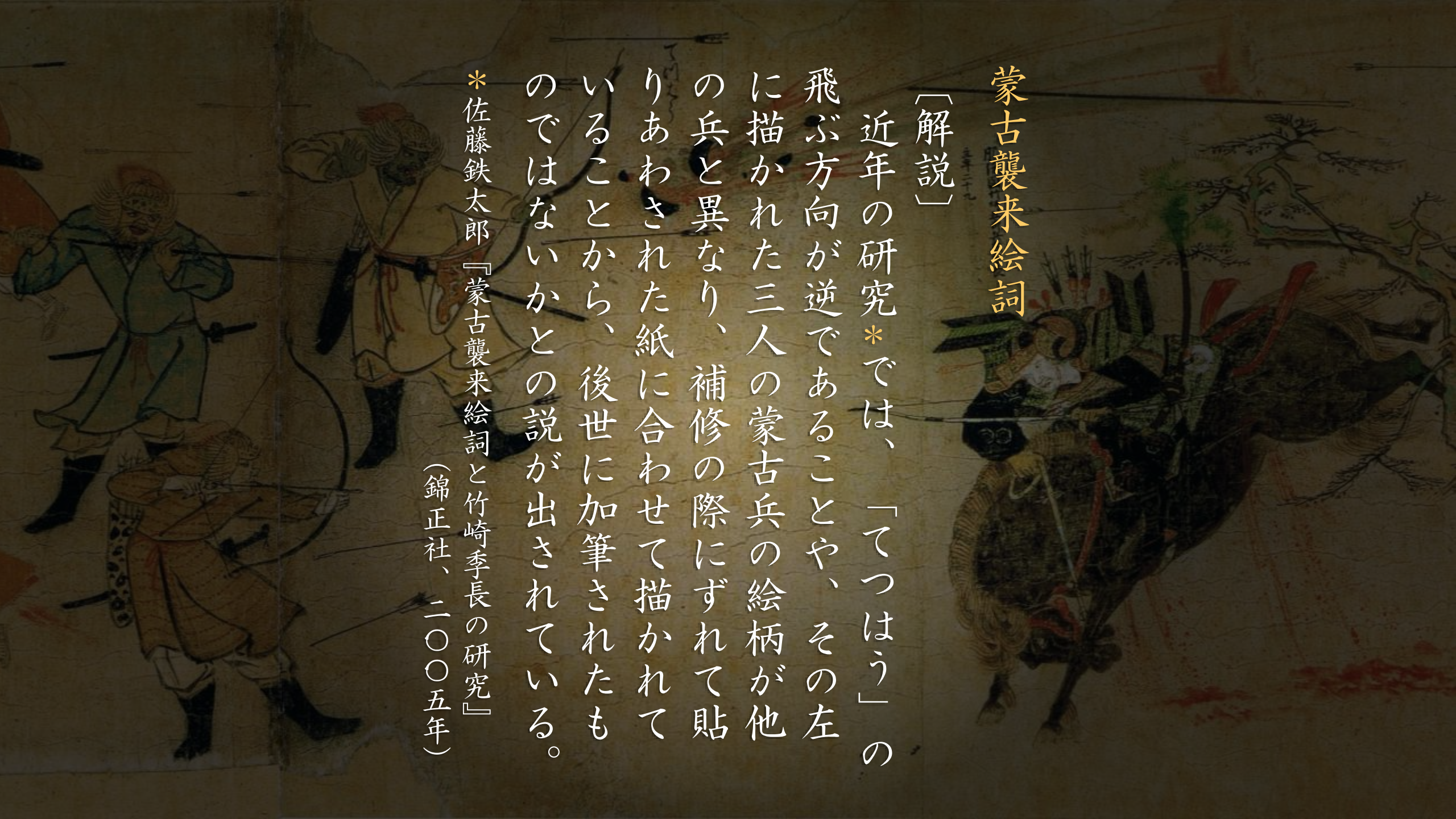
蒙古襲来絵詞

〔解説〕

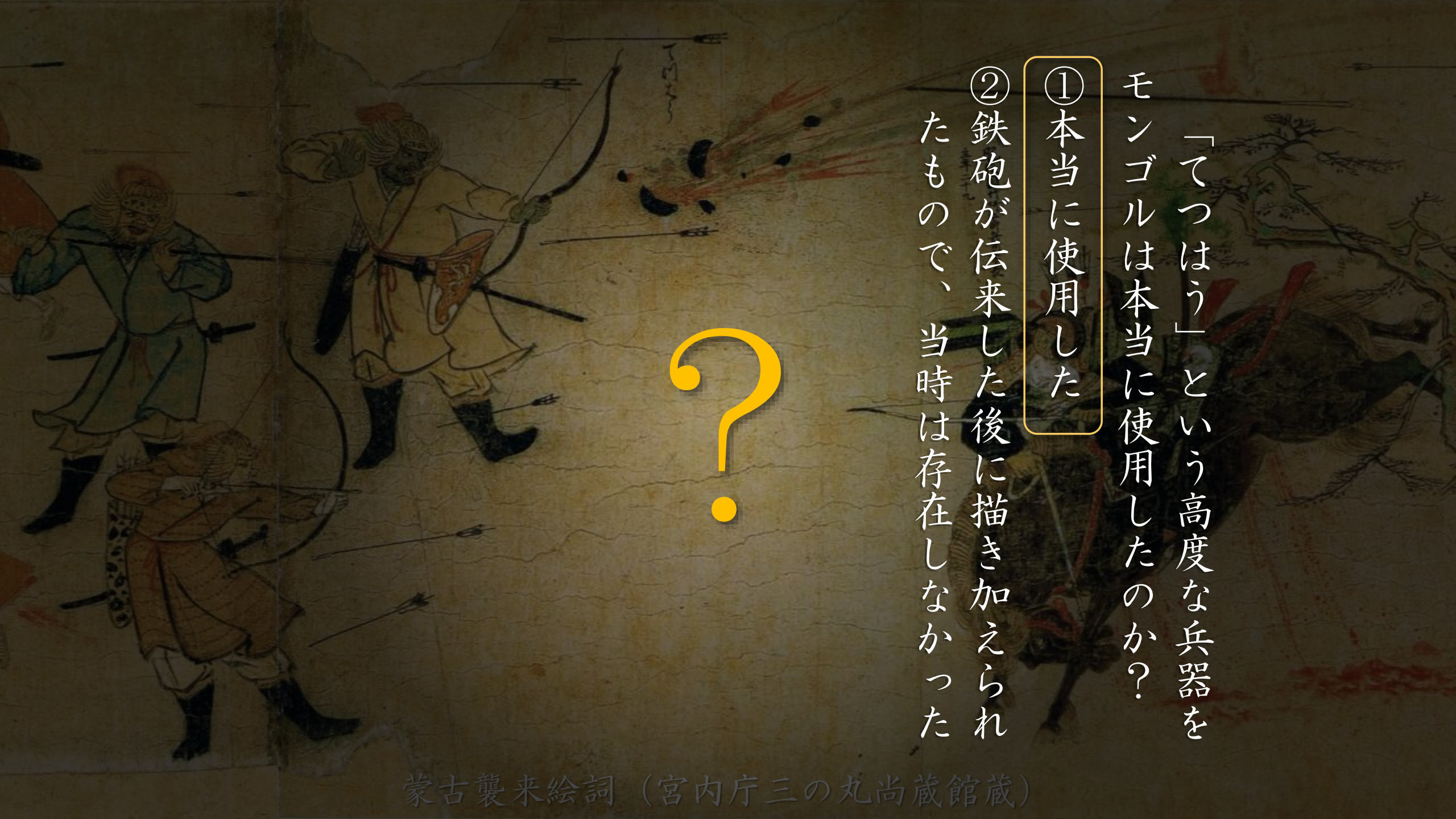
近年の研究*では、「てつはう」の飛ぶ方向が逆であることや、その左に描かれた三人の蒙古兵の絵柄が他の兵と異なり、補修の際にずれて貼りあわされた紙に合わせて描かれていることから、後世に加筆されたものではないかとの説が出されている。

*佐藤鉄太郎『蒙古襲来絵詞と竹崎季長の研究』

(錦正社、二〇〇五年)



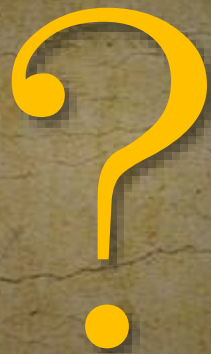




「てつはう」という高度な兵器を
モンゴルは本当に使用したのか？

① 本当に使用した

② 鉄砲が伝来した後に描き加えられたもので、
当時は存在しなかった



蒙古襲来絵詞

〔解説〕

モンゴルが「てつほう（鉄砲）」（炸裂弾）を使用していたことは、鎌倉時代に書かれた『八幡愚童訓』にも記録されている。

また近年、元の軍船が沈んだ長崎県松浦市鷹島付近の海域からその実物も発見されている。



鷹島(長崎県松浦市)





NHK ETV特集「日本と朝鮮の2000年第6集」より

鎌倉時代の記録が伝える「鉄砲」

(蒙古の)大將軍は高い所において、引くべき時には逃鼓を打ち、攻めるべき時には責鼓を叩き、それに従つて行動する。逃げる時は鉄砲を飛ばし、暗くして轟音をあげるのです、肝はつぶれ、目はくらみ、耳も聞こえなくなつて、呆然として東西もわからなくなつてしまふ。

『八幡愚童訓』卷上(『群書類聚』卷十三上)

*『八幡愚童訓』は鎌倉時代に八幡大菩薩の靈驗を愚童にもわかるようにと説き示した物語の二巻。

振舞死ヲハ腹ヲアケ取肝飲之自元牛馬美物トスルナレハ被射致以馬食トセリ曹輕馬能乗カ強命不惜強盛勇猛自在無窮馳引ヲ大將軍高所居上可引所逃鼓ヲウキ可懸扣責鼓隨夫寄引逃時

飛鐵砲暗クナシ鳴高ケレハ迷心失肝目ケレ耳塞テ忙然トメ東西ヲ不知日本軍如相互名乗合高名不覺ハ思フ一入宛勝負處此合戦ハ大勢一度寄合テ足手動處我モノト取付押致生捕ケリ是故ニ懸入程日本人一人トメ漏者マツナカリケ誠哉不教民ヲモテ戦之謂棄アル本文今思知ラレケル其中松浦黨多打レス原田一類深田追入ラレテ失ニタリ日田青屋二三百騎ニテ引エタリ青屋乗タル馬口強シテ自然敵陣ニツ引レタハ主人入シカハ彼手隨者共續テ懸タリケリヒシム

A man with a beard and a red robe stands in a dark, textured environment. The lighting is dramatic, highlighting the man's face and the texture of his clothing. The background is dark and appears to be a rough, stone-like surface.

第二節 南宋の滅亡

襄陽城の戦い

〔解説〕

日本への第一回遠征の後、クビライは南宋への攻撃を本格化し、その防衛拠点の一つ襄陽城を攻撃する。難攻不落の襄陽城を攻略するため、クビライは六千キロも離れたイラクから技術者を招き、最新兵器の開発に当たらせた。



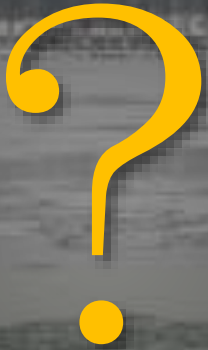


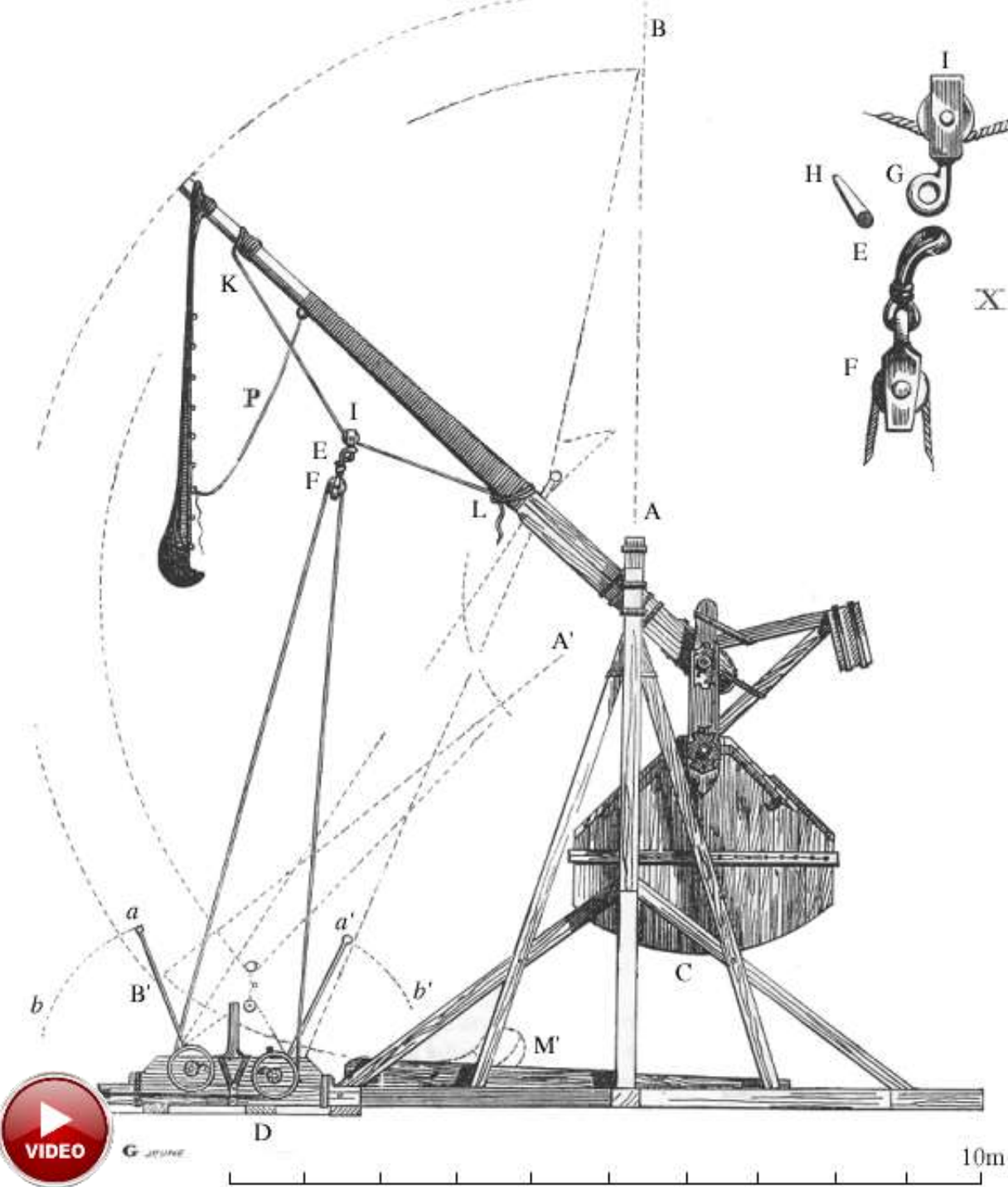
NHK「文明の道～クビライの夢・ユーラシア帝国の完成」より

幅四五〇メートルという広大な外堀に守られた襄陽城を攻略するため、クビライはイラクから招いた技術者にある最新兵器を開発させた。その兵器とは？

① 大砲を積んだ軍艦

② 投石機





回回砲(Trebuchet)

مکتبہ حوسری

مستور

NHK 「文明の道〜クビライの夢・ユーラシア帝国の完成」より

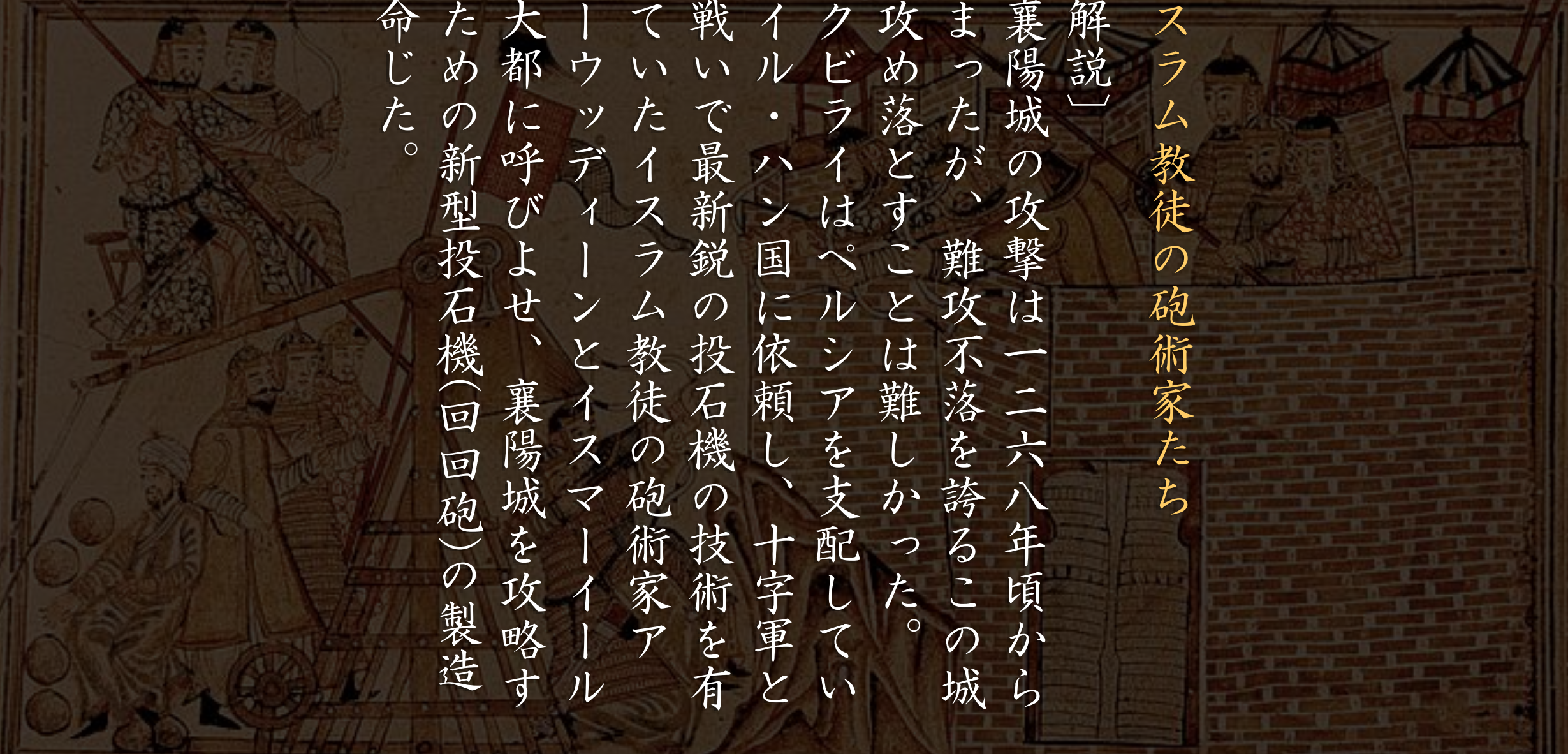
イスラム教徒の砲術家たち

〔解説〕

襄陽城の攻撃は一二六八年頃から始まったが、難攻不落を誇るこの城を攻め落とすことは難しかった。

クビライはペルシアを支配していたイル・ハン国に依頼し、十字軍との戦いで最新鋭の投石機の技術を有していたイスラム教徒の砲術家アラウツデーーンとイスマールを大都に呼びよせ、襄陽城を攻略するため新型投石機(回回砲)の製造を命じた。

اوليك المداير مشي الى عستان في عشرة الاف فارس وكان قد اجتمع تحت ظل رايته الامير نصر بن ناصر الدين والتونناش الخاجب وابو عبد الطاي زعيم العرب فحاصروا اوليك المردة في قلعة اركوش وبعثوا اليه من قتلته في اربعة ايام فمضى اليه ثلثة اعمى وثلثمائة فبعدهم ساعد من الحاربة



元史卷二〇三 亦思馬因伝

イスマーイールはイスラム教徒で、西域の実喇の人である。投石機の製造に優れた技術を持っていた。

至元八年（一二七一年）、アラールウツデイーンとともに都に呼ばれ、十年（一二七三年）、襄陽城の攻撃に従った。

五十匹帛二十五匹鈔萬貫元貞二年授大同路總管兼府尹大德五年遷兩浙都轉運使鹽課舊二十五萬引歲不能足拱至增五萬引遂爲定額九年改益都路總管兼府尹仍出內府弓矢寶刀賜之卒於官贈大司農神川郡公諡文莊

阿喇卜丹回回氏西域茂薩里人也至元八年世祖遣使徵礮匠於宗王額呼布格王以阿喇卜丹伊斯瑪音應詔二人舉家馳驛至京師給以官舍首造大礮豎於五門前帝命試之各賜衣段十一年國兵渡江平章阿爾哈雅遣使求礮手匠命阿喇卜丹往破潭州靜江等郡悉賴其力十五年授宣武將軍管軍總管十七年陛見賜鈔五千貫十八年命屯田於南京二十二年樞密院奉旨改元帥府爲回回礮手軍匠上萬戶府以阿喇卜丹爲副萬戶大德四年告老子布木濟勒襲副萬戶皇慶元年卒子瑪哈瑪廸沙襲

伊斯瑪音回回氏西域實喇人也善造礮至元八年與阿喇卜丹至京師十年從國兵攻襄陽未下伊斯瑪音

現在のイラク

大都(現在の北京)



投石機の威力

(イスマーイルは)地勢を調べ、投石機を襄陽城の東南の隅に置いた。重さ百五十斤(約九十キロ)もある砲弾が発射されると爆音は天地を震わせ、被弾した所はすべて破壊され、砲弾は地下七尺(約二メートル)に達した。南宋の安撫・呂文煥はこれに驚き、城を開いて投降した。

元史卷二〇三 亦思馬因伝

郡悉賴其力十五年授宣武將軍管軍總管十七年陞見賜鈔五千貫十八年命屯田於南京二十二年樞密院奉旨改元帥府爲回回礮手軍匠上萬戶府以阿喇卜丹爲副萬戶大德四年告老子布木濟勒襲副萬戶皇慶元年卒子瑪哈瑪迪沙襲

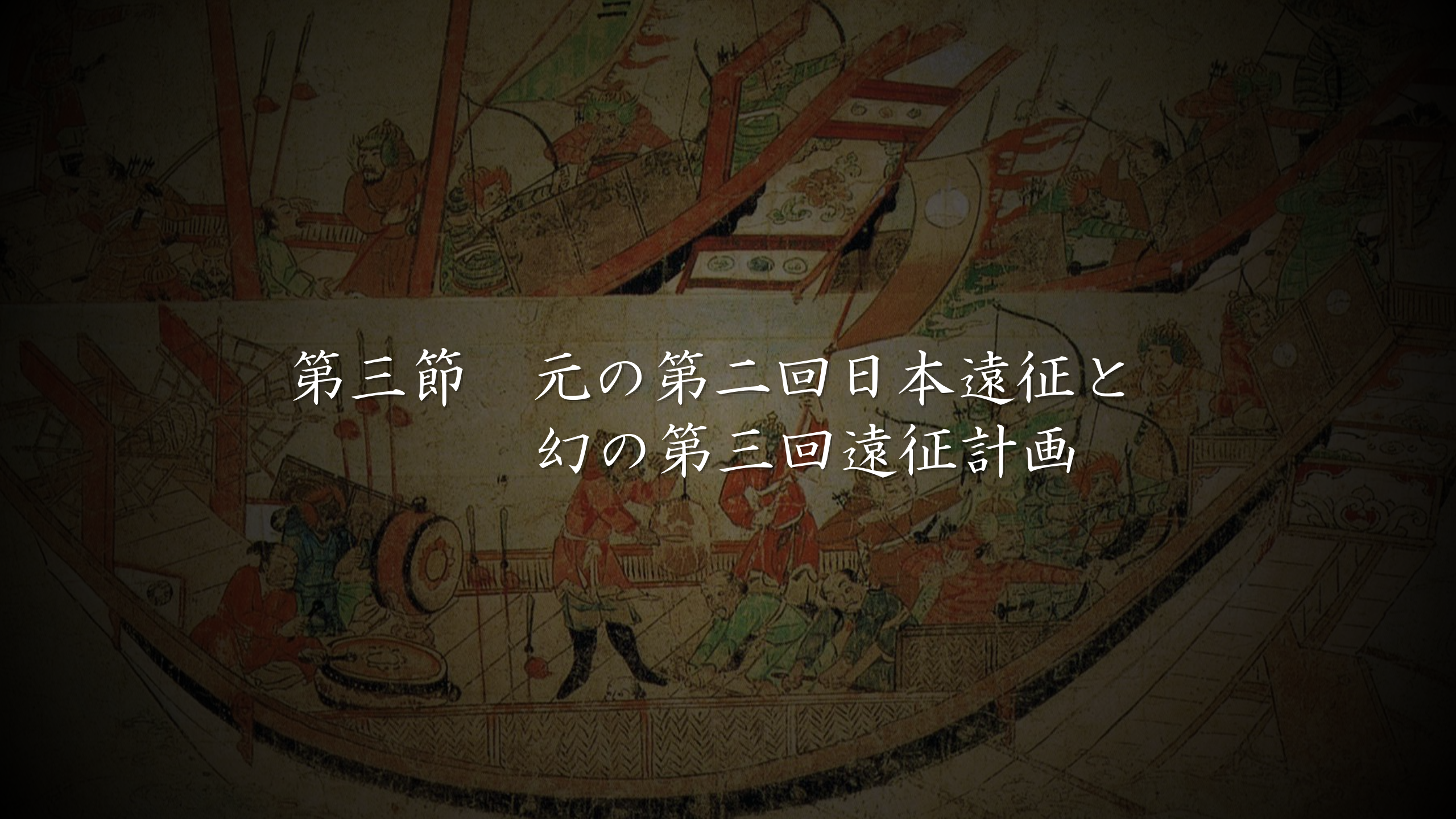
伊斯瑪音回回氏西域實喇人也善造礮至元八年與阿喇卜丹至京師十年從國兵攻襄陽未下伊斯瑪音

乾隆四年校刊

元史卷二百三 列傳

十

相地勢置礮於城東南隅重一百五十斤機發聲震天地所擊無不摧陷入地七尺宋安撫呂文煥懼以城降既而以功賜銀二百五十兩命爲回回礮手總管佩虎符十一年以疾卒子本布襲職時國兵渡江宋兵陳於南岸擁舟師迎戰本布於北岸豎礮以擊之舟悉沉沒後每戰用之皆有功十八年佩三珠虎符加鎮國上將軍回回礮手都元帥明年改軍匠萬戶府萬戶遷刑部尙書以弟額布爾沁爲萬戶佩元降虎符官廣威將軍本布俄進通奉大夫浙東道宣慰使賜鈔二萬五千貫俾養老焉子哈克繼廕授昭信校尉高郵府同知致和



第三節 元の第二回日本遠征と
幻の第三回遠征計画

第一回日本遠征(文永の役)の翌一
二七五年、クビライは、再び日本に
外交使節を派遣したが、日本はこれ
にどう対応したか？

①外交使節を殺してしまった

②戦争を回避するため、ねばり強
い交渉を行った



外交使節の殺害

〔解説〕


第一回日本遠征（文永の役）の翌一
二七五年、クビライは再び日本に外
交使節を派遣する。しかし、ときの
執権・北条時宗は使節団を鎌倉に連
行し、正使・杜世忠以下五名を斬首
した。

激怒したクビライは、一二八一年、
日本への第二回遠征（弘安の役）を命
じた。



元使塚に参拝する白鵬
(2015年4月3日)

常立寺(じょうりゅうじ)に伝わる「元使塚」(神奈川県藤沢市)



モンゴルの第一回遠征(文永の役)
の後、日本は博多湾沿岸に全長二十
キロにも及ぶ石塁を建造し、再度の
襲来に備えていた。

蒙古襲来絵詞 (宮内庁三の丸尚蔵館蔵)



蒙古襲来絵詞 (宮内庁三の丸尚蔵館蔵)

元寇防塁跡(福岡市)



1276年に博多湾沿岸に建造された石塁。高さ2.5~3m 全長20km

文跡元寇防塁



種保
武野元虎三之

爪後回

蒙古襲来絵詞 (宮内庁三の丸尚蔵館蔵)

元はさらに三度目の日本遠征も計画していたが、これはある理由から中止された。その理由とは？

①日本の武士の戦闘力の高さに脅威を抱いたため

②大越（ベトナム）への遠征で苦戦したため





NHK ETV特集「日本と朝鮮の2000年 第6回」より

0	後漢 25-220		
100			
200	魏 220-265	蜀 221-263	呉 222-280
300	晋 265-316		
400	五胡十六国時代	東晋 317-420	
500	北朝 439-589	南朝 420-589	
600	隋 581-619		
700	唐 618-907		
800			
900	五代十国 907-960		
1000	遼	北宋 960-1127	
1100			
1200	金 1115-1234	南宋 1127-1279	
1300	元 1271-1368		
1400			
1500	明 1368-1644		
1600			
1700			
1800	清 1616-1912		
1900	中華民國 1912-1949		
2000	中華人民共和國 1949-		



三別抄の抵抗運動
1270-73年

バクダン河の戦い
1288年

まとめ

アジアからヨーロッパに至る巨大帝国を築いたモンゴル。中国から漢民族王朝が消え去る中、日本はモンゴル軍の二度にわたる遠征を退ける。しかしモンゴルは当初から日本遠征を計画していたわけではなかった。外交交渉による関係構築を模索し、再三にわたり使節を派遣していた。

また、日本を勝利に導いたのも鎌倉武士の奮闘や暴風雨による天祐だけではなかった。その背景には朝鮮半島やベトナムの人々のモンゴルに対する果敢な抵抗運動があったのである。

参考文献

- ・ 網野善彦 『蒙古襲来』 (小学館文庫 二〇〇一年)
- ・ 佐藤鉄太郎 『蒙古襲来絵詞と竹崎季長の研究』 (錦正社、二〇〇五年)
- ・ 大倉隆二 『「蒙古襲来絵詞」を読む』 (海鳥社、二〇〇七年)

映像資料

- ・ NHK ETV 特集 「日本と朝鮮の二〇〇〇年 第六回 蒙古襲来の衝撃 三別抄と鎌倉幕府」 (二〇〇九年放送)
- ・ NHK 「文明の道くくビライの夢・ユーラシア帝国の完成」 (二〇〇三年放送)